

【練習問題】

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

「細殿に ^aびんなき人なん、暁にかささして出でける」といひ出でたるを、よく聞けば、 ^bわがうへなりけり。 ^c地下などいひても目やすく人にゆるさ ⁽¹⁾るばかりの人にも ^dあらざるを、あやしのことやと思ふほどに、上より御文もて来て、「返りごと、ただいま」と仰せ ⁽²⁾られたり。なにごとにかとて見れば、大がさの ^{かた}絵をかきて、人は見えず、ただ手のかぎり笠をとらへ ⁽³⁾させて、下に、

山の端明けしあしたより

と書かせ給へり。なほはかなきことにても、ただめでたくのみおぼえさせ給ふに、はづかしく心づきなきことは、 ^eいかでか御覽ぜられしと思ふに、 ^fかかるそら言のいでくる、くるしけれどをかしくてこと紙に雨をいみじう降らせて、下に、

「ならぬ名の降りにけるかな

さてや、ぬれ衣にはなり侍らむ」と したれば、右近の内侍などに語ら ⁽⁴⁾せ給ひて、わらはせ給ひけり。

〔枕草子〕

〔出典〕

『枕草子』

〔重要語句〕

- びんなし
- 暁
- うへ
- 目やすし
- あやし
- 仰す
- はかなし
- めでたし
- はづかし
- 心づきなし
- いかで
- 御覽ぜらる
- かかる
- そら言
- くるし
- をかし
- こと(異)
- いみじ
- 地下

〔古文常識〕

問三 傍線部 c 「地下」のよみがなを記せ。また、意味を記せ。

読み

意味

問四 傍線部 d 「あらざる」を文法的（品詞および文法的意味）に説明せよ。

| | |
|--|--|
| | |
|--|--|

問五 「山の端明けしあしたより」は和歌の第二・三句にあたるが、初句にはどんな言葉がくるのか。次にあげるものの中から選び、符号で答えよ。

イ しののめの ロ 朝まだき ハ 大がさや ニ み笠山

問六 傍線部 e 「いかでか御覧ぜられじ」を口語訳せよ。

【練習問題】

次の文章を読んで、後の問に答えよ。(設問の都合で、返り点・送り仮名を省いたところがある。)

佗嘗行^レ道、見有^{病咽塞者}。因^レ語^レ之^ニ。曰、「向^レ来^レ道隅有^レ売^レ餅人^一。萍齋甚酸^一。可^レ取^レ三升^一飲^レ之^一。病自^レ当^レ去^一。」即^レ如^レ佗^一言^一。立^レ吐^レ一蛇^一。乃^レ懸^レ於^レ車^一而^レ候^レ佗^一。時佗小兒戲^レ於^レ門中^一。逆^レ見^レ、自^レ相^レ謂^レ曰、「客車^レ辺有^レ物^一。必^レ是^レ逢^レ我^レ翁^一也。」及^レ客^レ進^一、顧^レ視^レ壁^レ北^一、懸^レ蛇^レ以^レ十^レ数^一。

〔出典〕

『後漢書』「方術伝」

〔重要表現〕

- 嘗
○因
○可
○自
○当
○即
○如
○立
○乃
○於
○相
○及
○以

乃^チ知^ル其^ノ奇^{ナルヲ}。

(注) ○佗——華佗。後漢の医者。 ○咽塞——のどがつまる病氣。

○萍齋——うきくさのなます。餅とともに売っていた。 ○酸——すっぱい。

○三升——約〇・六リットル。 ○逆見——予見。 ○翁——父。

問一 傍線部A「見有病咽塞者」は、「咽塞を病む者有るを見る」と読むが、この読み方に従って、

原文に返り点をつけよ。

見有病咽塞者。

問二 傍線部B「病自当去」を平仮名ばかりで書き下せ。

問三 傍線部C「如佗言」とあるが、どうしたというのか。具体的に説明せよ。